

お知らせ

2014年6月27日(金) 鹿児島県、7月31日(木) 大阪府、8月29日(金) 東京都、9月26日(金) 青森県で、『水産多面的機能発揮対策講習会』が開催されました。本講習会は、活動組織が行う水産多面的機能発揮活動の技術的水準の向上や活動組織相互の交流、情報交換の場を提供すること等を目的として開催されたものです。



他の地域でどのような活動を行っているのか知ることができて良かったという意見もあり、参考になった活動組織は多かったようです。

◆◆『水産多面的機能発揮対策報告会』開催予定!!◆◆

平成26年度の水産多面的機能発揮対策に係る事例報告会を開催します。開催日は下記の2日。

◆大阪：2014年12月17日(水)

◆東京：2015年1月23日(金)

大阪会場/千里ライフサイエンスセンター

東京会場/有楽町朝日ホール



本事業において活動されている方々、興味をお持ちの方々皆様のご来場、お待ちしております。詳しくは下記ホームページまで。

公式WEBページ

全国の取り組み情報や、サポート情報、講習会・報告会についての最新情報を掲載しております。

<http://www.hitoumi.jp/>



全国漁業協同組合連合会 漁政部 関根・草間

電話：03-3294-9616 FAX：03-3294-3347

E-mail：k-support@zengyoren.jf-net.ne.jp

全国内水面漁業協同組合連合会 御手洗・吉川

電話：03-3586-4821 FAX：03-3586-4898

E-mail：n-tamenteki@naisuimen.or.jp

お問い合わせ

海のゆりかご通信

≈ Vol. 044 ≈



北金ヶ沢漁港の風景(深浦町)

～水産多面的機能発揮対策事業とは?～

水産業・漁村の役割には、新鮮で安全な魚介類を皆さんの食卓に届けることその他、海の安全を監視し、森・川・海の環境を保全し、地域に伝わる漁村の文化を継承するなどの様々な役割があります。このような様々な役割を発揮するための活動に取り組む漁師や市民のみなさんのグループを支援するための事業が、水産多面的機能発揮対策事業です。

～海のゆりかご通信とは?～

海のゆりかご通信では、水産多面的機能発揮対策事業に取り組む全国の活動グループの活動を紹介するとともに、JF全漁連・全内漁連によるサポート情報をお届けします。

今月の活動レポート

活動組織名 ▶ 新深浦町漁協地域多面的機能発揮活動組織
場 所 ▶ 青森県西津軽郡深浦町
主 な 活 動 内 容 ▶ 海難救助訓練・藻場の保全・教育と啓発の場の提供

構 成
漁業者
新深浦町漁協
漁協女性部
など



新深浦町漁協地域多面的機能発揮活動組織

～海難救助訓練に参加して～

深浦町は青森県の日本海側、津軽半島の付け根にあり、世界遺産の白神山地や十三湖などの美しい自然に囲まれた町だ。水産業が町の重要な産業となっており、延縄、刺し網、底建網（定置網）漁業などが営まれ、マグロをはじめ、タラやヤリイカ、ヒラメなど、様々な魚介類が水揚げされている。



はじめに

深浦町で水産多面的機能発揮対策に取り組む活動グループが「新深浦町漁協地域多面的機能発揮活動組織」だ。新深浦町漁協と漁業者、漁協女性部を中心としたグループで、藻場の保全や白神山地におけるブナの植樹、魚食普及、海難救助訓練など様々な取り組みを行っている。

9月の月上旬、今年度の海難救助訓練が「岩崎」と「北金ヶ沢」の2地区で催された。訓練の目的は、万が一の海の事故に備えて、活動メンバーの安全に対する意識と救助活動の技術を高めることだ。

海難救助訓練

訓練は、港から0.5マイル（約800m）の沖合で漁船同士の衝突事故が発生し、乗組員が海に放り出され、その後船が炎上したという無線連絡が海岸局（漁協）に入ったところから始まった。

無線連絡を受け、活動グループ、海上保安部、地元警察署・消防署が集合し、対策本部が設置される。どんな流れでどんな作業を行うのか協議に入るのだ。もちろん訓練なので、活動グループと海上保安部とで作った綿密な訓練計画が事前に組み立てられているのだが、一瞬、周囲に緊迫感が漂う。

まずは人命が第一。対策本部の指示を受け、漂流者のいる事故現場に救出船を向かわせる。実際の救



出訓練は港の中で行われたが、遠目から見ても、縄はしごを使って水面から船に上がる方達は想像以上に大変そう…。周りで見守る人達の「頑張れ！頑張れ！」の声が港に響く。

漂流者の救助を確認したら、ポンプを積み込んだ船によって火災船の消化作業が始まる。白煙に続いて紅煙を焚き、火災の経過を表現した見事な演出だ。紅煙が焚かれた火災船に向かって勢いよく放水が行われ、完全鎮火と沈没する危険性がないことを確認、



さらに曳航（船で引っ張ること）可能であることを対策本部に連絡し、岸壁まで火災船を曳いて海上での訓練が終了した。

地域とともに



「ボンッ！」という救命胴衣の膨張音にびっくりする中学生。引き続き行われた、陸上の訓練での一コマだ。

陸上では地元の消防署と海上保安部の指導のもと、救助者への心肺蘇生とAEDによる応急手当の訓練、救命胴衣の装着訓練が地元中学校を交えて行われた。海上保安部からは、ペットボトルやクーラーボックスなどを転落者に投げて渡すだけで、救出する時間を稼ぐことができる、ということも教わった。中学生たちは、授業の一環で参加しているのだが、活動メンバー以上に？真剣に説明を聞き、訓練に取り組んでいるようだった。

ところで、学校の年間行事にイベントを組み込むことは大変難しい、という話を方々で聞く。「地元

の中学校と漁協とは様々な活動を通じて協力関係を築いてきました。今回もすんなり決まりましたよ。」と福田さん。こちら側からの一方通行ではない、お互いに必要とされる関係が作られている、そんな雰囲気を感じられた。

この日、訓練は、海難防止のための安全宣言と漁協女性部のみなさんからの「おにぎり」の炊き出しをもって終了した。

訓練への想い

「海難救助訓練を行うのは、漁師の高齢化も一つの理由なんです。もしも海の上で、心臓発作で倒れた時どうするのか？訓練の成果は船の上でも発揮できるのか？心配の種は尽きません。」と福田さん。訓練にはマンネリ化が付き物だが、様々な事態を想定した訓練をその都度考え、その訓練を重ねることで、尊い命が失われないようにしたい、福田さんと活動グループの切実で真摯な姿勢を感じながら、深浦町を後にした。



文：草間 雄大（JF全漁連）

写真：石岡 昇（水産土木建設技術センター）
表紙絵・コラム絵：山本 花南

コラム

～「エゴテン」作りに挑戦！～

深浦町の「道の駅」でエゴテンという食品をみつけました。エゴテンは、乾燥したエゴノリという海藻を煮溶かし、冷やして固められたもので、薄切りにして、酢味噌などを和えていただきます。新潟のイゴネリや福岡のオキュウトと同じものだと思います。今回は、乾燥したエゴノリも購入し、自分で作ってみることにしました。鍋に乾燥エゴノリと水を入れ、1時間かきまぜながら煮詰めます。普段調理などしないので、この作業がなかなか面倒くさくて大変。あとはトレーに流して冷やすだけ。うーん、何か違う。売っていたエゴテンは少し緑かったコンニャクのような感じだったのに、自分で作ったのは赤みがかっている。味も気のせいかな売っていたエゴテンの方が風味があるような。鍋の素材で色が変わるという話も聞きますが、どうなのでしょう。研究が必要なようです。（草間）

